

令和 5年度

事務事業評価表 (令和 4年度 の実績評価)

記入年月日
令和 5 年 4 月 1 日

事務事業名		叙勲栄典申請事務				事業区分		担当		
						新規/継続	継続	事務事業No.	060301001000	
						単独/補助	単独		010101	
政策体系上の位置付け								所属課	秘書広報課	
政策体系	総合計画の施策名	0603 時代に合った自治体運営						課長名		
	政策名	06 みんなで築く自治のまちづくり						グループ	秘書広報G	
	施策名	03 時代に合った自治体運営						担当者名		
	手段名	01 ①計画的な行政運営								
財務会計上の位置付け						事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計			
	01	02	01	04	02	00	秘書関係事業			
法令根拠	日本国憲法第7条第7号						単年度繰返し (平成17年度~)			
							期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
手段	①事務事業の概要(事務事業の全体像)
	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移								
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)	
<ul style="list-style-type: none"> 春、秋の叙勲に際して、該当者の調査および内申 叙位、死亡叙勲、高齢者叙勲は随時 内申書類として、功績調査書、履歴書などを作成 受章者に対する市長から伝達式の実施 	推薦・内申件数	件	8.00	3.00	4.00	4.00	4.00	
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)	
桜川市民 (叙勲の対象となる者、基準により選考された者)	桜川市人口	人	38,422.00	37,653.00	37,269.00	36,885.00	36,500.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)	
候補者を顕彰するため適正な申請事務を行う	申請者のうち叙勲等に結びついている割合	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

(3) 投入量 (事業費) の推移		03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)	期間限定 総投入量
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	
		使用料・手数料	千円	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	
		一般財源	千円	0	0	0	
		事業費計(A)	千円	0	0	0	
	正規職員従事人数	人	2.00人	2.00人	2.00人		

事業費の内訳	04年度事業費 実績 (千円)			05年度事業費 予算 (千円)		
		合計	0		合計	0

(4) 当該年度の実施内容	05年度の事業内容	06年度の事業内容	07年度の事業内容
※年度ごとに事業内容を記入する	令和6年春・秋叙勲に関する潜在候補者を調査・県に報告。令和6年春・秋叙勲に関し市で選んだ候補者を県に推薦。随時高齢者叙勲・死亡叙勲・褒章対象者の内申書類を作成し県に内申。	令和7年春・秋叙勲に関する潜在候補者を調査・県に報告。令和7年春・秋叙勲に関し市で選んだ候補者を県に推薦。随時高齢者叙勲・死亡叙勲・褒章対象者の内申書類を作成し県に内申。	令和8年春・秋叙勲に関する潜在候補者を調査・県に報告。令和8年春・秋叙勲に関し市で選んだ候補者を県に推薦。随時高齢者叙勲・死亡叙勲・褒章対象者の内申書類を作成し県に内申。

事務事業名	叙勲栄典申請事務	事務事業No.	60301001000	所属課	秘書広報課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
国の勲章・褒章制度は、明治8年に勲章、14年に褒章が制度化された。戦後の一時停止期間を経て、昭和39年から生存者への叙勲が、昭和53年から褒章制度も再開された。その後、社会経済情勢の変化に対応するべく見直しを行い、平成15年秋から現在の制度に移行している。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
特にない。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
現状維持	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 国の栄典制度に基づくものであり、市民と行政による豊かな地域の自治づくりに結びつく。
有効性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 国の栄典制度に基づき、市で行うことになっているため妥当である。
効率性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない 国の基準によるものであり、現状の基準どおり行わなければならない。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 叙勲を受けられなくなる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない ほかの手段はない。
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 事業費はない。業務時間は、対象者が多ければ増えるので削減は難しい。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 受益者負担はなく、公正公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																			
①目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	・今年度は、3件(春秋叙勲1件(推薦1件、内申1件)、死亡叙勲0件、死亡叙位0件、高齢者叙勲1件)の推薦・内申を実施。 ・功績については、本人や家族、関係機関から聞き取りや資料を提供してもらい確認した。 ・死亡叙勲については、死亡日から1週間以内に県に内申書類を提出しなければならないため、他の職員と協力し内申書類を作成する必要あり。																			
②有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
③効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
④公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																			
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																			
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上維持低下</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		成果	向上維持低下	コスト			削減	維持	増加				○	×			×	×	×
成果	向上維持低下	コスト																			
		削減	維持	増加																	
			○	×																	
		×	×	×																	
		(6) 事務事業優先度評価結果																			
		成果優先度評価結果 ⑦																			

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> A A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>